



RADIUS の設定

この章は、次の項で構成されています。

- [RADIUS の概要, on page 1](#)
- [RADIUS の前提条件, on page 4](#)
- [RADIUS の注意事項と制約事項 \(4 ページ\)](#)
- [RadSec の注意事項と制約事項 \(5 ページ\)](#)
- [RADIUS サーバの設定, on page 5](#)
- [RADIUS 設定の確認 \(23 ページ\)](#)
- [RADIUS サーバー統計情報の表示, on page 23](#)
- [RADIUS サーバ統計情報のクリア \(24 ページ\)](#)
- [RADIUS の設定例, on page 24](#)
- [RADIUS のデフォルト設定, on page 25](#)
- [RADIUS の機能の履歴 \(25 ページ\)](#)

RADIUS の概要

Remote Access Dial-In User Service (RADIUS) 分散クライアント/サーバー システムを使用すると、不正アクセスからネットワークを保護できます。シスコの実装では、RADIUS クライアントは Cisco Nexus デバイスで稼働し、すべてのユーザー認証情報およびネットワーク サービス アクセス情報が格納された中央の RADIUS サーバに認証要求およびアカウント要求を送信します。

RADIUS ネットワーク環境

RADIUS は、高度なセキュリティを必要とし、同時にリモートユーザのネットワーク アクセスを維持する必要があるさまざまなネットワーク環境に実装できます。

RADIUS は、アクセスセキュリティを必要とする次のネットワーク環境で使用します。

- RADIUS をサポートしている複数ベンダーのネットワークデバイスを使用したネットワーク。

たとえば、複数ベンダーのネットワーク デバイスで、単一の RADIUS サーバ ベースのセキュリティ データベースを使用できます。

- すでに RADIUS を使用中のネットワーク。

RADIUS 機能を持つ Cisco Nexus デバイスをネットワークに追加できます。この作業は、AAA サーバーに移行するときの最初の手順になります。

- リソース アカウンティングが必要なネットワーク。

RADIUS アカウンティングは、RADIUS 認証または RADIUS 認可とは個別に使用できます。RADIUS アカウンティング機能を使用すると、サービスの開始および終了時に、セッション中に使用したリソース（時間、パケット、バイトなど）の量を示すデータを送信できます。インターネットサービスプロバイダー（ISP）は、RADIUS アクセスコントロールおよびアカウンティング用ソフトウェアのフリーウェア版を使用して、特殊なセキュリティおよび課金ニーズに対応しています。

- 認証プロファイルをサポートするネットワーク。

ネットワークで RADIUS サーバを使用すると、AAA 認証を設定し、ユーザごとのプロファイルを設定できます。ユーザごとのプロファイルにより、Cisco Nexus デバイスは、既存の RADIUS ソリューションを使用してポートを管理できると同時に、共有リソースを効率的に管理してさまざまなサービス レベル契約を提供できます。

RADIUS の操作について

ユーザが RADIUS を使用して Cisco Nexus デバイスへのログインおよび認証を試行すると、次のプロセスが実行されます。

1. ユーザが、ユーザ名とパスワードの入力を求められ、入力します。
2. ユーザ名および暗号化されたパスワードが、ネットワーク経由で RADIUS サーバに送信されます。
3. ユーザは、RADIUS サーバから次のいずれかの応答を受信します。
 - ACCEPT：ユーザが認証されたことを表します。
 - REJECT：ユーザは認証されず、ユーザ名とパスワードの再入力を求められるか、アクセスを拒否されます。
 - CHALLENGE：RADIUS サーバによってチャレンジが発行されます。チャレンジは、ユーザから追加データを収集します。
 - CHANGE PASSWORD：RADIUS サーバからユーザに対して新しいパスワードの選択を求める要求が発行されます。

ACCEPT 応答または REJECT 応答には、EXEC 許可またはネットワーク許可に使用される追加データが含まれています。RADIUS 認可を使用するには、まず RADIUS 認証を完了する必要があります。ACCEPT または REJECT パケットに含まれる追加データの内容は次のとおりです。

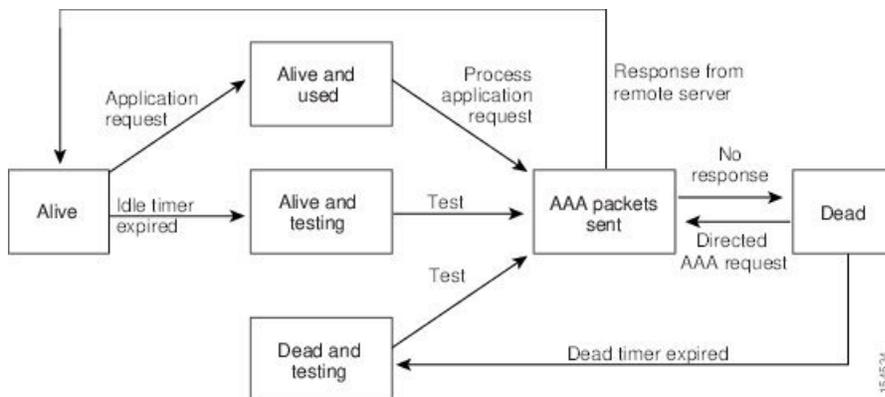
- ユーザがアクセス可能なサービス (Telnet、rlogin、またはローカルエリアトランスポート (LAT) 接続、ポイントツーポイントプロトコル (PPP)、シリアルラインインターネットプロトコル (SLIP)、EXEC サービスなど)
- 接続パラメータ (ホストまたはクライアントの IPv4 アドレス、アクセスリスト、ユーザータイムアウト)

RADIUS サーバのモニタリング

応答を返さない RADIUS サーバがあると、AAA 要求の処理に遅延が発生する可能性があります。AAA 要求の処理時間を節約するために、定期的に RADIUS サーバをモニタリングし、RADIUS サーバが応答を返す (アライブ状態である) かどうかを調べるよう、スイッチを設定できます。スイッチは、応答を返さない RADIUS サーバをデッド (dead) 状態としてマークし、デッド RADIUS サーバには AAA 要求を送信しません。また、定期的にデッド RADIUS サーバをモニタリングし、それらが応答を返したらアライブ状態に戻します。このプロセスにより、RADIUS サーバが稼働状態であることを確認してから、実際の AAA 要求がサーバに送信されます。RADIUS サーバの状態がデッドまたはアライブになると、簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) トラップが生成され、障害が発生したことを知らせるエラーメッセージがスイッチによって表示されます。

次の図に、さまざまな RADIUS サーバの状態を示します。

Figure 1: RADIUS サーバの状態



Note アライブサーバとデッドサーバのモニタリング間隔は異なります。これらはユーザが設定できます。RADIUS サーバモニタリングを実行するには、テスト認証要求を RADIUS サーバに送信します。

ベンダー固有属性

インターネット技術特別調査委員会 (IETF) が、ネットワークアクセスサーバと RADIUS サーバの間でのベンダー固有属性 (VSA) の通信のための方式を規定する標準を作成してい

ます。IETF は属性 26 を使用します。ベンダーは VSA を使用して、一般的な用途には適さない独自の拡張属性をサポートできます。シスコの RADIUS 実装は、この仕様で推奨される形式を使用して、1 つのベンダー固有オプションをサポートしています。シスコのベンダー ID は 9、サポートされるオプションのベンダータイプは 1 (名前付き `cisco-av-pair`) です。値は次の形式のストリングです。

```
protocol : attribute separator value *
```

プロトコルは、特定のタイプの許可用のシスコ属性です。必須属性の区切り文字は等号 (=) で、アスタリスク (*) は任意属性を示します。

Cisco Nexus デバイスでの認証に RADIUS サーバーを使用する場合は、許可情報などのユーザー属性を認証結果とともに返すように、RADIUS サーバーに RADIUS プロトコルで指示します。この許可情報は、VSA で指定されます。

次の VSA プロトコル オプションが Cisco Nexus デバイスでサポートされています：

- **Shell** : ユーザー プロファイル情報を提供する `access-accept` パケットで使用されます。
- **Accounting** : `accounting-request` パケットで使用されます。値にスペースが含まれている場合は、二重引用符で囲む必要があります。

Cisco Nexus デバイスは次の属性をサポートしています：

- **roles** : ユーザーが属するすべてのロールの一覧です。値フィールドは、スペースで区切られた複数のロール名をリストするストリングです。
- **accountinginfo** : 標準の RADIUS アカウンティングプロトコルで処理される属性に加えて、アカウンティング情報が格納されます。この属性は、スイッチ上の RADIUS クライアントからの `Account-Request` フレームの VSA 部分だけに送信されます。この属性と共に使用できるのは、アカウンティングのプロトコルデータユニット (PDU) だけです。

RADIUS の前提条件

RADIUS には、次の前提条件があります。

- RADIUS サーバーの IPv4 アドレスまたはホスト名を取得すること。
- RADIUS サーバーから事前共有キーを取得すること。
- Cisco Nexus デバイスが、AAA サーバーの RADIUS クライアントとして設定されていること。

RADIUS の注意事項と制約事項

RADIUS 設定時の注意事項と制限事項は次のとおりです。

- デバイスに構成できる RADIUS サーバの最大数は 64 です。

RadSec の注意事項と制約事項

RadSec には、次の注意事項と制約事項があります。

- Cisco NX-OS リリース 10.3(1)F 以降、トランスポート層での RADIUS/TCP ピア間の通信を保護するために、RADIUS Secure (RadSec) サポートが Cisco Nexus スイッチで提供されます。
- RadSec はスイッチ レベルで有効/無効にする必要があります。これは、異なるトランスポート プロトコル (つまり、UDP と TCP-with-TLS) を持つサーバーの組み合わせが不可能であるためです。
- **radius-serverdirected-request** コマンドは、RadSec 機能ではサポートされていません。
- **test aaa server radius** コマンドは RadSec サーバーではサポートされていません。RadSec でサポートされるのは **test aaa group** コマンドだけです。
- Dot1x は RadSec で公式にサポートされていません。
- RADIUS サーバーの監視は、RadSec サーバーではサポートされていません。
- RADIUS サーバーの再送信とタイムアウトは、UDP ベースの RADIUS モードに適用されますが、RadSec サーバーに対してはサポートされません。
- Cisco NX-OS リリース 10.4(3)F 以降、TLS バージョン 1.3 および 1.2 が、Cisco Nexus スイッチでサポートされています。TLS v1.1 は廃止されました。

RADIUS サーバの設定

ここでは、RADIUS サーバーの設定方法について説明します。

SUMMARY STEPS

1. Cisco Nexus デバイスと RADIUS サーバとの接続を確立します。
2. RADIUS サーバーの事前共有秘密キーを設定します。
3. 必要に応じて、AAA 認証方式用に、RADIUS サーバのサブセットを使用して RADIUS サーバグループを設定します。
4. 必要に応じて、次のオプションのパラメータを設定します。
5. 必要に応じて、定期的に RADIUS サーバーをモニタリングするよう設定します。

DETAILED STEPS

Procedure

ステップ 1 Cisco Nexus デバイスと RADIUS サーバとの接続を確立します。

「[RADIUS サーバホストの設定, on page 6](#)」を参照してください。

ステップ2 RADIUS サーバーの事前共有秘密キーを設定します。

「[RADIUS のグローバルな事前共有キーの設定, on page 7](#)」を参照してください。

ステップ3 必要に応じて、AAA 認証方式用に、RADIUS サーバのサブセットを使用して RADIUS サーバグループを設定します。

[ログイン時にユーザによる RADIUS サーバの指定を許可, on page 16](#) および [RADIUS サーバのアカウントिंगおよび認証属性の設定, on page 18](#) を参照してください。

ステップ4 必要に応じて、次のオプションのパラメータを設定します。

- デッドタイム間隔「[デッドタイム間隔の設定, on page 21](#)」を参照してください。
- ログイン時に RADIUS サーバーの指定を許可「[ログイン時にユーザによる RADIUS サーバの指定を許可, on page 16](#)」を参照してください。
- 送信リトライ回数とタイムアウト間隔「[グローバルな RADIUS 送信リトライ回数とタイムアウト間隔の設定, on page 17](#)」を参照してください。
- アカウントिंगおよび認証属性「[RADIUS サーバのアカウントिंगおよび認証属性の設定, on page 18](#)」を参照してください。

ステップ5 必要に応じて、定期的に RADIUS サーバーをモニタリングするよう設定します。

「[RADIUS サーバーの定期的モニタリングの設定, on page 20](#)」を参照してください。

RADIUS サーバホストの設定

認証に使用する各 RADIUS サーバーについて、IPv4 アドレスまたはホスト名を構成する必要があります。すべての RADIUS サーバーホストは、デフォルトの RADIUS サーバーグループに追加されます。最大 64 の RADIUS サーバーを設定できます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **radius-server host {ipv4-address | host-name}**
3. switch(config)# **exit**
4. (Optional) switch# **show radius-server**
5. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	switch(config)# radius-server host { <i>ipv4-address</i> <i>host-name</i> }	RADIUS サーバーの IPv4 アドレスまたはホスト名を指定します。
ステップ 3	switch(config)# exit	コンフィグレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) switch# show radius-server	RADIUS サーバーの設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) switch# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

Example

次に、RADIUS サーバーとしてホスト 10.10.1.1 を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# radius-server host 10.10.1.1
switch(config)# exit
switch# copy running-config startup-config
```

RADIUS のグローバルな事前共有キーの設定

Cisco Nexus デバイスで使用するすべてのサーバーについて、グローバルレベルで事前共有キーを構成できます。事前共有キーとは、スイッチと RADIUS サーバー ホスト間の共有秘密テキストストリングです。

Before you begin

リモートの RADIUS サーバーの事前共有キー値を取得していること。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **radius-server key** [0 | 7] *key-value*
3. switch(config)# **exit**
4. (Optional) switch# **show radius-server**
5. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 2	switch(config)# radius-server key [0 7] <i>key-value</i>	すべての RADIUS サーバーで使用する事前共有キーを指定します。クリアテキスト形式 (0) または暗号化形式 (7) 事前共有キーを指定できます。デフォルトの形式はクリアテキストです。 最大で 63 文字です。 デフォルトでは、事前共有キーは設定されません。
ステップ 3	switch(config)# exit	コンフィグレーションモードを終了します。
ステップ 4	(Optional) switch# show radius-server	RADIUS サーバーの設定を表示します。 Note 事前共有キーは、実行コンフィギュレーション内に暗号化形式で保存されます。暗号化された事前共有キーを表示するには、 show running-config コマンドを使用します。
ステップ 5	(Optional) switch# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行構成をスタートアップ構成にコピーして、変更を継続的に保存します。

Example

次に、デバイスで使用するすべてのサーバーについて、グローバルレベルで事前共有キーを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# radius-server key 0 QsEfThUkO
switch(config)# exit
switch# copy running-config startup-config
```

RADIUS サーバーの事前共有キーの設定

事前共有キーとは、Cisco Nexus デバイスと RADIUS サーバー ホスト間の共有秘密テキストストリングです。

Before you begin

リモートの RADIUS サーバーの事前共有キー値を取得していること。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **radius-server host** {*ipv4-address* | *host-name*} **key** [0 | 7] *key-value*

3. switch(config)# **exit**
4. (Optional) switch# **show radius-server**
5. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# radius-server host { <i>ipv4-address</i> <i>host-name</i> } key [0 7] <i>key-value</i>	特定の RADIUS サーバーの事前共有キーを指定します。クリアテキスト形式 (0) または暗号化形式 (7) 事前共有キーを指定できます。デフォルトの形式はクリアテキストです。 最大で 63 文字です。 この事前共有キーがグローバル事前共有キーの代わりに使用されます。
ステップ 3	switch(config)# exit	コンフィグレーションモードを終了します。
ステップ 4	(Optional) switch# show radius-server	RADIUS サーバーの設定を表示します。 Note 事前共有キーは、実行コンフィギュレーション内に暗号化形式で保存されます。暗号化された事前共有キーを表示するには、 show running-config コマンドを使用します。
ステップ 5	(Optional) switch# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行構成をスタートアップ構成にコピーして、変更を継続的に保存します。

Example

次に、RADIUS 事前共有キーを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# radius-server host 10.10.1.1 key 0 PlIjUhYg
switch(config)# exit
switch# show radius-server
switch# copy running-config startup-config
```

RadSec の設定

RadSec は、TLS 経由で RADIUS データグラムを転送するためのプロトコルです。

この手順では、スイッチで RadSec を有効または無効にする方法について説明します。

始める前に

- サーバーのクライアント ID 証明書と CA 証明書がスイッチにインストールされていることを確認します。
- サーバー証明書のサブジェクト名が、スイッチで構成されているサーバーのホスト名/IP アドレスと一致していることを確認してください。
- RadSec サーバーを使用するように AAA 認証とアカウントिंगを設定する前に、**test aaa group** コマンドを使用して、RadSec 認証が成功することを確認します。
- スイッチからの頻繁な TLS セッションの再試行を避けるために、RadSec サーバーで TLS アイドル タイムアウトを最大値に設定します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **radius-server secure tls**
3. **radius-server host t {ipv4-address | ipv6-address | hostname} key {key} auth-port 2083 acct-port 2083 authentication accounting**
4. **radius-server host {ipv4-address | ipv6-address | hostname} tls client-trustpoint trustpoint**
5. **radius-server host {ipv4-address | ipv6-address | hostname} tls idle-timeout value**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal	コンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 2	radius-server secure tls 例： switch# radius-server secure tls	グローバル レベルで有効にします。 (注) この CLI は、RadSec に使用されるポート番号を変更または影響しません。
ステップ 3	radius-server host t {ipv4-address ipv6-address hostname} key {key} auth-port 2083 acct-port 2083 authentication accounting	認証およびアカウントングポートとともに共有秘密キーを使用して RadSec サーバーを構成します。 (注)

	コマンドまたはアクション	目的
	例 : <pre>switch# radius-server host 10.105.222.161 key radsec auth-port 2083 acct-port 2083 authentication accounting</pre>	サーバーの場合、認証とアカウントのデフォルトの RadSec ポートは「2083」で、キーは「radsec」です。スイッチの場合、RadSec ポートとキーのデフォルト設定はありません。サーバーで定義されているように、この設定を明示的に追加してください。
ステップ 4	radius-server host { <i>ipv4-address</i> <i>ipv6-address</i> <i>hostname</i> } tls client-trustpoint <i>trustpoint</i> 例 : <pre>switch# radius-server host 10.105.222.161 tls client-trustpoint rad1</pre>	クライアント ID 証明書がインストールされている TLS クライアント信頼ポイントを設定します。
ステップ 5	radius-server host { <i>ipv4-address</i> <i>ipv6-address</i> <i>hostname</i> } tls idle-timeout <i>value</i> 例 : <pre>switch# radius-server host 10.105.222.161 tls idle-timeout 80</pre>	TLS アイドルタイムアウトを設定します。デフォルト値は 600 秒です。 (注) RadSec クライアントからのトランザクションがない場合、サーバーはタイムアウト値に基づいて接続を閉じることができます。クライアントの TLS アイドルタイムアウトは、このリリースではサポートされていません。クライアントは自分自身で接続を閉じません。



- (注) リモートユーザーがログインすると、約 20 秒間のログインの遅延が見られることがあります。つまり、スイッチと RadSec サーバーの間で TLS セッションの確立が初めて行われるときです。TLS セッションが起動すると、連続したリモートログインで遅延は見られません。



- (注) RadSec クライアントで、証明書が存在しない、または無効な証明書がサーバーと交換されているなどの証明書関連の問題が発生している場合、show run コマンドで遅延が発生する可能性があります。

DTLS を使用した RADIUS について

Cisco NX-OS リリース 10.4(1)F から、DTLS プロトコルを使用した RADIUS が導入されました。このプロトコルは、UDP を使用してセキュア チャネルを介して RADIUS データグラムを転送するためのものです。

RADIUS と DTLS は、トランスポート層での RADIUS ピア間のセキュアな通信を可能にします。このプロトコルは、さまざまな管理ドメインや疑わしい、安全でないネットワークを介してセキュアな RADIUS パケット転送を行いたい場合に役立ちます。

DTLS を使用する RADIUS の構成

始める前に

- スイッチの IP アドレス/DNS ホスト名と同じサブジェクトと代替名を使用してクライアントアイデンティティ証明書を作成してください。トラストポイントを使用して、スイッチにクライアントアイデンティティ証明書をインストールします。
- DTLS/RADIUS に使用される ISE サーバのサーバ証明書がスイッチにインストールされていることを確認します。
- クライアントアイデンティティ証明書の署名に使用される CA 証明書が ISE サーバの信頼できる証明書ストアにインストールされていることを確認します。
- サーバ証明書のサブジェクト名が、スイッチで構成されているサーバのホスト名/IP アドレスと同じであることを確認します。
- RADIUS サーバを使用するように AAA 認証およびアカウントンググループを構成する前に、`test aaa group` コマンドで RADIUS 認証が成功することを確認します。
- スイッチ レベルで RADIUS と DTLS プロトコルを有効にする必要があります。
- DTLS と TLS など、異なるトランスポートプロトコルを使用するように RADIUS サーバを組み合わせて構成することはサポートされていません。一度に1つのプロトコルを構成できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <code>switch# configure terminal</code> <code>switch(config)#</code>	コンフィギュレーションモードに入ります。
ステップ 2	radius-server secure dtls 例： <code>switch(config)# radius-server secure dtls</code>	スイッチで RADIUS with DTLS プロトコルを有効にします。
ステップ 3	radius-server host {ipv4-address ipv6-address hostname} key {radius/dtls} auth-port 2083 acct-port 2083 authentication accounting 例：	共有秘密キー、および認証ポートとアカウントングポートを使用して、RADIUS サーバを構成します。 (注)

	コマンドまたはアクション	目的
	<pre>switch(config)# radius-server host 10.105.222.161 key radius/dtls auth-port 2083 acct-port 2083 authentication accounting</pre>	<p>認証およびアカウンティングのデフォルトの接続先 DTLS ポートは UDP/2083 です。RFC に従って、DTLS のデフォルトのサーバー キーはありません。サーバーで定義されているように、この構成を明示的に追加してください。ISE サーバーは、その時点で「radius/dtls」キーで事前設定されている必要があります。ISE サーバーで DTLS を構成するときに、Nexus スイッチでキーを確認して追加します。</p>
ステップ 4	<p>radius-server host {<i>ipv4-address</i> <i>ipv6-address</i> <i>hostname</i>} dtls client-trustpoint <i>trustpoint</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# radius-server host 10.105.222.161 dtls client-trustpoint rad1</pre>	<p>スイッチ ID 証明書がインストールされているトラストポイントで、DTLS client-trustpoint パラメータを構成します。<i>rad1</i> は、クライアントアイデンティティ証明書が必要なスイッチ上のトラストポイントです。</p>
ステップ 5	<p>radius-server host {<i>ipv4-address</i> <i>ipv6-address</i> <i>hostname</i>} dtls idle-timeout <i>value</i></p> <p>例 :</p> <pre>switch# radius-server host 10.105.222.161 dtls idle-timeout 80</pre>	<p>DTLS アイドル タイムアウトを設定します。デフォルト値は 600 秒です。</p> <p>(注)</p> <p>RADIUS クライアントからのトランザクションがない場合、サーバは定義されたタイムアウト値に従い接続を閉じます。クライアントの DTLS アイドルタイムアウトは、このリリースではサポートされていません。クライアントは自分自身で接続を閉じません。</p>



- (注)
- リモートユーザーがログインすると、約 20 秒の遅延が発生することがあります。これは、スイッチと RADIUS サーバの間で TLS セッションが初めて確立される時に発生します。いったん TLS セッションが確立されれば、後続のリモートログインで遅延は発生しません。
 - RADIUS クライアントで、証明書が存在しない、または無効な証明書がサーバと交換されているなどの証明書関連の問題が発生している場合、show run コマンドで遅延が発生する可能性があります。

RADIUS サーバグループの設定

サーバグループを使用して、1 台または複数台のリモート AAA サーバによる認証を指定できます。グループのメンバーはすべて、RADIUS プロトコルに属している必要があります。設定した順序に従ってサーバが試行されます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch (config)# **aaa group server radius group-name**
3. switch (config-radius)# **server** {*ipv4-address* |*server-name*}
4. (Optional) switch (config-radius)# **deadtime** *minutes*
5. (Optional) switch(config-radius)# **source-interface** *interface*
6. switch(config-radius)# **exit**
7. (Optional) switch(config)# **show radius-server group** [*group-name*]
8. (Optional) switch(config)# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	switch (config)# aaa group server radius group-name	RADIUS サーバグループを作成し、そのグループの RADIUS サーバグループコンフィギュレーションサブモードを開始します。 <i>group-name</i> 引数は、最大 127 文字の英数字のストリングで、大文字小文字が区別されます。
ステップ 3	switch (config-radius)# server { <i>ipv4-address</i> <i>server-name</i> }	RADIUS サーバを、RADIUS サーバグループのメンバーとして設定します。 指定した RADIUS サーバが見つからない場合は、 radius-server host コマンドを使用してサーバを設定し、このコマンドをもう一度実行します。
ステップ 4	(Optional) switch (config-radius)# deadtime <i>minutes</i>	モニタリング デッドタイムを設定します。デフォルト値は 0 分です。指定できる範囲は 1 ~ 1440 です。 Note RADIUS サーバグループのデッドタイム間隔が 0 より大きい場合は、この値がグローバルなデッドタイム値より優先されます。
ステップ 5	(Optional) switch(config-radius)# source-interface <i>interface</i>	特定の RADIUS サーバグループに発信元インターフェイスを割り当てます。 サポートされているインターフェイスのタイプは管理および VLAN です。 Note

	Command or Action	Purpose
		source-interface コマンドを使用して、ip radius source-interface コマンドによって割り当てられたグローバル ソース インターフェイスをオーバーライドします。
ステップ 6	switch(config-radius)# exit	設定モードを終了します。
ステップ 7	(Optional) switch(config)# show radius-server group [group-name]	RADIUS サーバグループの設定を表示します。
ステップ 8	(Optional) switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行構成をスタートアップ構成にコピーして、変更を継続的に保存します。

Example

次に、RADIUS サーバグループを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch (config)# aaa group server radius RadServer
switch (config-radius)# server 10.10.1.1
switch (config-radius)# deadtime 30
switch (config-radius)# use-vrf management
switch (config-radius)# exit
switch (config)# show radius-server group
switch (config)# copy running-config startup-config
```

What to do next

AAA サービスに RADIUS サーバグループを適用します。

RADIUS サーバグループのためのグローバル発信元インターフェイスの設定

RADIUS サーバグループにアクセスする際に使用する、RADIUS サーバグループ用のグローバル発信元インターフェイスを設定できます。また、特定の RADIUS サーバグループ用に異なる発信元インターフェイスを設定することもできます。

SUMMARY STEPS

1. switch# configure terminal
2. switch(config)# ip radius source-interface interface
3. switch(config)# exit
4. (Optional) switch# show radius-server
5. (Optional) switch# copy running-config startup config

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# ip radius source-interface interface	このデバイスで設定されているすべての RADIUS サーバー グループ用のグローバル発信元インターフェイスを設定します。発信元インターフェイスは、管理または VLAN インターフェイスにすることができます。
ステップ 3	switch(config)# exit	コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 4	(Optional) switch# show radius-server	RADIUS サーバーの設定情報を表示します。
ステップ 5	(Optional) switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、RADIUS サーバー グループのグローバル発信元インターフェイスとして、`mgmt 0` インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip radius source-interface mgmt 0
switch(config)# exit
switch# copy running-config startup-config
```

ログイン時にユーザによる RADIUS サーバの指定を許可

ログイン時に RADIUS サーバーを指定することをユーザーに許可できます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **radius-server directed-request**
3. switch(config)# **exit**
4. (Optional) switch# **show radius-server directed-request**
5. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# radius-server directed-request	ログイン時にユーザーが認証要求の送信先となる RADIUS サーバーを指定できるようにします。デフォルトでは無効になっています。
ステップ 3	switch(config)# exit	コンフィグレーションモードを終了します。
ステップ 4	(Optional) switch# show radius-server directed-request	directed request の設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、ネットワークにログインしたときに、ユーザーが RADIUS サーバーを選択できるようにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# radius-server directed-request
switch# exit
switch# copy running-config startup-config
```

グローバルな RADIUS 送信リトライ回数とタイムアウト間隔の設定

すべての RADIUS サーバーに対するグローバルな再送信リトライ回数とタイムアウト間隔を設定できます。デフォルトでは、スイッチはローカル認証に戻す前に、RADIUS サーバーへの送信を 1 回だけ再試行します。このリトライの回数は、サーバーごとに最大 5 回まで増やすことができます。タイムアウト間隔には、Cisco Nexus デバイスが RADIUS サーバからの応答を待つ時間を指定します。これを過ぎるとタイムアウトエラーになります。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **radius-server retransmit count**
3. switch(config)# **radius-server timeout seconds**
4. switch(config)# **exit**
5. (Optional) switch# **show radius-server**
6. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# radius-server retransmit count	すべての RADIUS サーバの再送信回数を指定します。デフォルトの再送信回数は 1 で、範囲は 0 ~ 5 です。
ステップ 3	switch(config)# radius-server timeout seconds	RADIUS サーバの送信タイムアウト間隔を指定します。デフォルトのタイムアウト間隔は 5 秒で、範囲は 1 ~ 60 秒です。
ステップ 4	switch(config)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) switch# show radius-server	RADIUS サーバの設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、RADIUS サーバで、リトライ回数を 3、伝送タイムアウト間隔を 5 秒に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# radius-server retransmit 3
switch(config)# radius-server timeout 5
switch(config)# exit
switch# copy running-config startup-config
```

RADIUS サーバのアカウントिंगおよび認証属性の設定

RADIUS サーバをアカウントング専用、または認証専用に使用するかを指定できます。デフォルトでは、RADIUS サーバはアカウントングと認証の両方に使用されます。RADIUS のアカウントングおよび認証メッセージの宛先 UDP ポート番号も指定できます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. (Optional) switch(config)# **radius-server host {ipv4-address || host-name} acct-port udp-port**
3. (Optional) switch(config)# **radius-server host {ipv4-address || host-name} accounting**
4. (Optional) switch(config)# **radius-server host {ipv4-address || host-name} auth-port udp-port**
5. (Optional) switch(config)# **radius-server host {ipv4-address || host-name} authentication**

6. switch(config)# **exit**
7. (Optional) switch(config)# **show radius-server**
8. switch(config)# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	(Optional) switch(config)# radius-server host { <i>ipv4-address</i> <i>host-name</i> } acct-port <i>udp-port</i>	RADIUS アカウンティングのメッセージに使用する UDP ポートを指定します。デフォルトの UDP ポートは 1812 です。 範囲は 0 ~ 65535 です。
ステップ 3	(Optional) switch(config)# radius-server host { <i>ipv4-address</i> <i>host-name</i> } accounting	特定の RADIUS サーバーをアカウンティング用のみを使用することを指定します。デフォルトでは、アカウンティングと認証の両方に使用されます。
ステップ 4	(Optional) switch(config)# radius-server host { <i>ipv4-address</i> <i>host-name</i> } auth-port <i>udp-port</i>	RADIUS 認証メッセージ用の UDP ポートを指定します。デフォルトの UDP ポートは 1812 です。 範囲は 0 ~ 65535 です。
ステップ 5	(Optional) switch(config)# radius-server host { <i>ipv4-address</i> <i>host-name</i> } authentication	特定の RADIUS サーバーを認証用のみを使用することを指定します。デフォルトでは、アカウンティングと認証の両方に使用されます。
ステップ 6	switch(config)# exit	コンフィギュレーションモードを終了します。
ステップ 7	(Optional) switch(config)# show radius-server	RADIUS サーバーの設定を表示します。
ステップ 8	switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

Example

次に、RADIUS サーバーのアカウントリング属性と認証属性を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# radius-server host 10.10.1.1 acct-port 2004
switch(config)# radius-server host 10.10.1.1 accounting
switch(config)# radius-server host 10.10.2.2 auth-port 2005
switch(config)# radius-server host 10.10.2.2 authentication
switch # exit
switch # copy running-config startup-config
switch #
```

RADIUS サーバーの定期的モニタリングの設定

RADIUS サーバーの可用性をモニタリングできます。パラメータとして、サーバーに使用するユーザー名とパスワード、およびアイドルタイマーがあります。アイドルタイマーには、RADIUS サーバーがどのくらいの期間要求を受信しなかった場合にスイッチがテストパケットを送信するかを指定します。このオプションを設定することで、サーバーを定期的にテストできます。



Note セキュリティ上の理由から、RADIUS データベース内の既存のユーザー名と同じテストユーザー名を設定しないことを推奨します。

テストアイドルタイマーには、RADIUS サーバーがどのくらいの期間要求を受信しなかった場合にスイッチがテストパケットを送信するかを指定します。

デフォルトのアイドルタイマー値は 0 分です。アイドル時間間隔が 0 分の場合、スイッチは RADIUS サーバーの定期的なモニタリングを実行しません。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **radius-server host** {*ipv4-address* | *host-name*} **test** {*idle-time minutes* | **password** *password* [*idle-time minutes*] | **username** *name* [**password** *password* [*idle-time minutes*]]}
3. switch(config)# **radius-server deadtime** *minutes*
4. switch(config)# **exit**
5. (Optional) switch# **show radius-server**
6. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# radius-server host { <i>ipv4-address</i> <i>host-name</i> } test { <i>idle-time minutes</i> password <i>password</i> [<i>idle-time minutes</i>] username <i>name</i> [password <i>password</i> [<i>idle-time minutes</i>]]}	<p>サーバー モニタリング用のパラメータを指定します。デフォルトのユーザー名は test、デフォルトのパスワードは test です。</p> <p>デフォルトのアイドルタイマー値は 0 分です。</p> <p>有効な範囲は、0 ~ 1440 分です。</p> <p>Note RADIUS サーバーの定期的なモニタリングを行うには、アイドルタイマーに 0 より大きな値を設定する必要があります。</p>

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	switch(config)# radius-server <i>deadtime</i> <i>minutes</i>	スイッチが、前回応答しなかった RADIUS サーバーをチェックするまでの時間 (分) を指定します。 デフォルト値は 0 分です。 有効な範囲は 1 ~ 1440 分です。
ステップ 4	switch(config)# exit	コンフィグレーション モードを終了します。
ステップ 5	(Optional) switch# show radius-server	RADIUS サーバーの設定を表示します。
ステップ 6	(Optional) switch# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行構成をスタートアップ構成にコピーして、変更を継続的に保存します。

Example

次に、ユーザー名 (user1) およびパスワード (Ur2Gd2BH) と、3 分のアイドル タイマーおよび 5 分のデッドタイムで、RADIUS サーバー ホスト 10.10.1.1 を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# radius-server host 10.10.1.1 test username user1 password Ur2Gd2BH
idle-time 3
switch(config)# radius-server deadtime 5
switch(config)# exit
switch# copy running-config startup-config
```

デッドタイム間隔の設定

すべての RADIUS サーバのデッドタイム間隔を設定できます。デッドタイム間隔には、Cisco Nexus デバイスが、RADIUS サーバーをデッド状態であると宣言した後、そのサーバーがライブ状態に戻ったかどうかを確認するためにテストパケットを送信するまでの間隔を指定します。デフォルト値は 0 分です。



Note デッドタイム間隔が 0 分の場合、RADIUS サーバは、応答を返さない場合でも、デッドとしてマークされません。RADIUS サーバ グループに対するデッドタイム間隔を設定できます。
「[RADIUS サーバ グループの設定, on page 13](#)」を参照してください。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **radius-server** *deadtime*
3. switch(config)# **exit**

4. (Optional) switch# **show radius-server**
5. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# radius-server deadtime	デッドタイム間隔を設定します。デフォルト値は 0 分です。有効な範囲は 1 ~ 1440 分です。
ステップ 3	switch(config)# exit	コンフィグレーションモードを終了します。
ステップ 4	(Optional) switch# show radius-server	RADIUS サーバーの設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、RADIUS サーバーに 5 分間のデッドタイムを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# radius-server deadtime 5
switch(config)# exit
switch# copy running-config startup-config
```

RADIUS サーバまたはサーバグループの手動モニタリング

SUMMARY STEPS

1. switch# **test aaa server radius** {ipv4-address | server-name} [**vrf** vrf-name] *username password*
test aaa server radius {ipv4-address | server-name} [**vrf** vrf-name] *username password*
2. switch# **test aaa group** group-name *username password*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# test aaa server radius {ipv4-address server-name} [vrf vrf-name] username password test aaa server radius {ipv4-address server-name} [vrf vrf-name] username password	RADIUS サーバーにテストメッセージを送信して可用性を確認します。
ステップ 2	switch# test aaa group group-name username password	RADIUS サーバー グループにテストメッセージを送信して可用性を確認します。

Example

次に、可用性を確認するために、RADIUS サーバーとサーバーグループにテストメッセージを送信する例を示します。

```
switch# test aaa server radius 10.10.1.1 user 1 Ur2Gd2BH
switch# test aaa group RadGroup user2 As3He3CI
```

RADIUS 設定の確認

AAA 情報を表示するには、次のいずれかの作業を行います：

コマンド	目的
show running-config radius [all]	実行構成中の RADIUS の構成を表示します。
show startup-config radius	スタートアップ コンフィギュレーションの RADIUS 設定を表示します。
show radius-server [server-name ipv4-address ipv6-address] [directed-request groups sorted statistics]	設定済みのすべての RADIUS サーバのパラメータを表示します。

RADIUS サーバー統計情報の表示

SUMMARY STEPS

1. switch# **show radius-server statistics** {hostname | ipv4-address}

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# show radius-server statistics {hostname ipv4-address}	RADIUS 統計情報を表示します。

RADIUS サーバ統計情報のクリア

Cisco NX-OS デバイスが保持している RADIUS サーバーのアクティビティに関する統計情報を表示します。

始める前に

Cisco NX-OS デバイスに RADIUS サーバーを設定します。

手順の概要

1. (任意) switch# **show radius-server statistics** {hostname | ipv4-address}
2. switch# **clear radius-server statistics** {hostname | ipv4-address}

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	(任意) switch# show radius-server statistics {hostname ipv4-address}	Cisco NX-OS デバイスでの RADIUS サーバー統計情報を表示します。
ステップ 2	switch# clear radius-server statistics {hostname ipv4-address}	RADIUS サーバ統計情報をクリアします。

RADIUS の設定例

次に、RADIUS を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# radius-server key 7 "ToIkLhPpG"
switch(config)# radius-server host 10.10.1.1 key 7 "ShMoMhTl" authentication accounting
switch(config)# aaa group server radius RadServer
switch(config-radius)# server 10.10.1.1
switch(config-radius)# exit
```

```
switch(config-radius)# use-vrf management
```

RADIUS のデフォルト設定

次の表に、RADIUS パラメータのデフォルト設定を示します。

Table 1: デフォルトの RADIUS パラメータ

パラメータ	デフォルト
サーバーの役割	認証とアカウントिंग
デッド タイマー間隔	0 分
再送信回数	1
再送信タイマー間隔	5 秒
アイドル タイマー間隔	0 分
サーバの定期的モニタリングのユーザ名	test
サーバの定期的モニタリングのパスワード	テスト

RADIUS の機能の履歴

表 2: RADIUS の機能の履歴

機能名	リリース	機能情報
RADIUS	5.0(3)U1(1)	この機能が導入されました。
IPv6	5.0(3)U3(1)	IPv6 サポートが導入されました。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。